

第30回 フィジーの遠隔教育事情について 海外ボランティアの経験から

- 南太平洋大学(USP)では遠隔教育が盛んです
 - 1964年、周辺国12国が資金を捻出してフィジーに南太平洋大学を設立
 - ・遠隔教育を柱として設立された。
 - ・かつてWebCTも導入していたが資金が続かず現在はMoodleに移行
 - USPにも日本が援助している(皆さんの税金です)
 - ・現在は南太平洋大学にICTセンターを建設中(無償資金協力:20億円)
 - ・1998年 遠隔教育改善のための衛星回線設備、アンテナ設置(無償資金協力:3億円)
- 小中学校の遠隔教育事情
 - 私の配属先(学校教育放送ユニット)では
 - ・ラジオ教育番組を制作(全学年用/教員用)。
42週のうち29週毎日10:30~12:00放送。小学校:733校、中学校:166校
 - ・教員にビデオ教材を無償で提供(約400本)。
 - 印象的だった映像教材
 - ・教員用教科書ガイドプログラム“MoneySmart” :「お弁当を売って稼ぎましょう！」
 - 今年から中学校向け遠隔教育が試験的に始まった。(ラジオ放送)

青年海外協力隊

- JICA(国際協力機構)の事業のひとつ
[技術協力・有償資金協力・無償資金協力・国際緊急援助・ボランティア派遣]
- 派遣は原則2年間
- 相手国からの要請によって派遣される
- 協力分野:農林水産、加工、保守操作、土木建築、保健衛生、教育文化、スポーツ、計画・行政の8部門、約120種
- 現在派遣中の国:75カ国
- 派遣中の隊員数:2,479名(男971名、女1,508名)
- ICT関連の要請が増えてきた
例)ICT関連の要望調査票
プログラム:ICT支援プログラム 派遣国:バングラデシュ
プログラム:基礎教育・職業教育改善 派遣国:ボツワナ



フィジー諸島共和国

- 伝統的な自給自足生活を続ける人々が暮らす、南太平洋の多民族国家。
- 場所:南太平洋。オーストラリアの横
- 人口:80万人(フィジー人50%、インド人45%、その他5%)
公用語は英語。
- 大きさ:約300の島々を合わせて四国くらい
- 後途上国。
- 主要産業:観光、砂糖
- “シェア”の文化。「一人で食事」は最も失礼
- 珍しい嗜好品:カヴァ(植物の根っこを砕いた飲み物)
- 食べ物



南太平洋大学(USP)の遠隔教育

- ・12カ国にそれぞれ分校がある
 - ・フィジー、キリバス、ナウル、ソロモン、トンガ、[ツバル](#)、バヌアツ、サモア、クック諸島、マーシャル、ニウエ、トケラウ
- ・衛星を教育目的に利用したのはUSPが初！
 - ・1972年、NASAの中古衛星を利用して教育支援ネットワークを構築
 - ・短波での個別指導や印刷教材→最近は部分的に衛星やインターネットを用いた教材へ
- ・生徒数約21,000人のうち、9000人以上が遠隔地で受講
- ・350単位の授業が遠隔で供給されている
- ・充実した遠隔教育センター
 - ・スタッフ60名。コースデザインと開発運営、学生サポートが主
 - ・スタッフトレーニングとその研究
- ・“遠隔教育:こんな方にお勧めです”(USPホームページから)
 - ・南太平洋諸国の遠隔地にいる人
 - ・大家族を養うため、経済的な理由から、通学できない人
 - ・家族や友達から離れて暮らしたくない人
 - ・自立した環境で勉強したい人



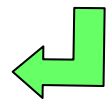
小中学校の教育事情

- 小中学校のレベル格差は激しい。地域・私立・公立・宗派によって大きな差。
- 先生が一番偉い
- 就学率: ほぼ100% 識字率: 95%
- 授業は黒板を写すだけの時も
- PMAC科目は最近採用された
- フィジー人とインド人の試験合格点数が違う(フィジー人優遇政策)
- 小学校3年生用の英語の教科書を持ってきました。



eラーニング授業設計支援室
ランチオンセミナー

Luncheon seminar



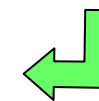
カヴァ(これがないと始まらない)

- 行事の時にも飲みますが、日常的にも飲まれています(価格はビールの1/10)



南太平洋大学 ツバルキャンパス

ツバル: 人口10000人



食べ物には困りません 主食だけでもこんなにあります。

